

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立盲学校)

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿	○児童生徒一人ひとりの確かな『わかる!』を実現し、夢や目標に向けチャレンジすることを全力で支援する学校 ○三重県の視覚障がい教育の中核的役割を果たす学校	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	○自信や自己肯定感を高め、夢や目標(日常の課題から、スポーツや文化的な活動、国家試験合格や優れた施術者になること等)を自ら定め、挑戦しようとする力 ○自他の命を大切にするとともに、仲間とともに積極的に活動し、互いを尊重し理解し合う関係を築くことができる力
	ありたい教職員の姿	○視覚障がい教育に関する専門性の維持・向上に積極的に取り組み、関係機関と連携をしながら視覚障がい児・者の学習支援やセンター的機能の充実をはかろうとする ○幼児児童生徒一人ひとりの状況に応じた誠実な支援を行い、幼児児童生徒及び保護者からの信頼に応え、人権を重んじた真摯な態度で教育を行う

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	児童生徒・保護者 ・児童生徒自身の持つ力を十分に発揮したい。 ・同世代の児童生徒同士の関わりを深めたい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	視覚障がい児・者に対する専門的な教育的支援の提供	県内の視覚障がいのある幼児児童生徒を本校につなぎ、ともに支援すること
(3)前年度の学校関係者評価など	学校規模の縮小が見込まれる今後、注力すべきは、県内唯一のセンター的機能をさらに充実させていくことである。情報発信はますます重要であり、児童生徒の学びの場面やフロアーバレーなどの活動から成長した姿を発信したり、研修機能を充実させたりするなど、来校し体験してもらう機会の充実を図る。	
(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・少数で一人ひとりの状況に応じて細やかな学習計画を設定し指導できる反面、同世代の学習集団での教育活動を保障するための工夫や努力が常に必要である。 ・県で唯一の視覚障がい特別支援学校としてセンター的機能をさらに充実させることができるよう、校内外で適切な指導支援を行い、本校の歴史の中で蓄えられた視覚障がい教育の専門性を、維持・向上していく必要がある。 ・児童生徒の実態の多様化に対応できるような進路指導のあり方としていく必要がある。 ・視覚障がいのある乳幼児や小・中学校等で学ぶ児童生徒に対する支援について、教育相談活動の一環として取り組んでいるが、さらに確実な支援体制としていく必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育的支援を必要とする視覚障がい児・者等に本校の相談支援活動について確実に周知できるよう、積極的に外部に発信し、啓発していく必要がある。 ・近隣地域等との連携のあり方について、校舎移転を踏まえつつ、関係校と連携しながら推進していく必要がある。 ・視覚障がい者の特性に配慮した巨大地震や津波などに対する防災・減災の取り組みを一層進めていく必要がある。 ・時間外労働が一部の教員に偏っていることから、業務分担の平準化を図るとともに、全体的な総勤務時間の縮減を図る必要がある。

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の主体的な学習を指導できるよう継続的に授業改善に取り組む。 ・児童生徒が、校内外で同世代の仲間とともに活動できるよう、多様な集団の保障に努める。 ・教職員の視覚障がい教育に対する専門性の維持、向上をはかるため、校内と対外的な研修の往還により視覚障がい教育の専門性を身につけられるような研修体制を工夫しながら継続する。 ・将来の社会参画と自立に向けて、幼・小・中・高・専と継続したグランドデザインを構築しキャリア教育の実践を積み重ねる。理療科においては、確実な国家試験合格を目指す。 ・視覚障がいのある乳幼児や小・中学校で学ぶ児童生徒へのより確実な教育支援体制を整備する（幼稚部・通級による指導）。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の全ての視覚障がい児・者に、本校の教育支援活動を知ることができるよう、情報発信や、関係機関と連携した啓発活動を一層工夫し強化していく。 ・県内全域に対するセンター的機能の充実をはかるとともに、学校所在地域との連携を強めていく。 ・児童生徒の生命の安全を第一に考え、より幅広い視点から危機管理体制の見直しをすすめる。 ・校舎の移転に向けて、関係各署と連携協力のもと、準備をすすめていく。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>学習生活指導の充実</p>	<p>(1)個々の学習意欲と基礎学力の向上 (小・中学部) 【活動指標】月1回以上生徒の情報交換会をもち指導に取り組む。年間11回以上。 【成果指標】個別の指導計画内の学習意欲・基礎学力の向上について全員達成する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(2)人とのつながり、社会性を身につける (小・中学部) 【活動指標】年3回以上、小中学部合同の学習や、校外学習を実施する。 【成果指標】個別の指導計画内の人とのつながり、社会性を身につけることを全員達成する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(3)学習に自主的に取り組める姿勢を身につける (普通科) 【活動指標】学部会で月1回生徒の学習状況の情報交換を行う。 【成果指標】各生徒の個別の指導計画の、各教科における年間目標1項目以上達成する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(4)思考力・判断力・コミュニケーション力・情報活用能力の向上 (普通科) 【活動指標】毎週1回以上、自立活動の担当者間で取り組み内容の検討と成果を共有する。年に3回程度、学部全体での進捗と指導の流れについて情報共有する。 【成果指標】生徒自身が将来の進路に役立つスキルに関する目標設定ができる。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	

	<p>(5) 進路に有効となる資格取得への支援と人権を尊重する 施術者の育成 (理療科)</p> <p>【活動指標】 実力テストや模擬試験等を計画的に実施し、進路希望に合わせた個別指導を行う。臨床実習や校外実習を通して、施術者として必要な資質・能力と人権尊重の意識を育成する。</p> <p>【成果指標】 3年生の国家試験合格率100%を目指す。就労への具体的な将来像を持たせ、施術者として人権を尊重する高い倫理観を育成する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(6) 舎生一人一人の自立に向けた支援を行う (寄宿舎)</p> <p>【活動指標】 保護者、学級担任と連携を密にする。舎監との情報共有の時間を1日2回、聾学校との合同の引継ぎを1日1回行う。月1回の研修会で目標に対する進捗状況の共有と指導内容の確認及び振り返りを行う。</p> <p>【成果指標】 保護者、学級担任と学期毎に懇談を実施し、情報共有する。職員間及び舎監や聾学校との毎日の引継ぎを確実にし、情報共有を図る。全職員で統一した指導・支援を行う。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(7) お互いを大切にできる力・生活の質を高められるような力の向上を図る (寄宿舎)</p> <p>【活動指標】 舎生主体の舎生会活動に取り組み、聾学校と合同で行事を年間2回行う。月初めに生活目標を伝え、意識づける。</p> <p>【成果指標】 行事等の感想・反省を聞き、楽しかったという割合80%以上を達成する。月末に生活目標の感想・反省を聞き、80%以上を達成する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(8) 早期支援・早期教育の充実と、各種機関と連携した教育相談の充実 (支援部)</p> <p>【活動指標】 早期支援・早期教育「ひだまり教室」「ぱんだ教室」「親子のつどい」「ひだまり会」「でアイふれアイ相談会」の実施。教育相談 個々のニーズを把握し、それに応じた必要な回数を実施する。</p> <p>【成果指標】 年度末にアンケートを行い、「満足」の項目について、早期支援・早期教育 については保護者、教育相談について各種機関の満足度80%以上を達成する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	◎
	<p>(9) 校務支援システムの円滑な活用を進める (教務部)</p> <p>【活動指標】 個別の指導計画、出席簿、通知表、指導要録について、入力呼びかけや入力説明、サポート等を行う。</p> <p>【成果指標】 期限までに100%入力を完了する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(10) 読書活動および図書館利用の推進 (総務部：図書)</p> <p>【活動指標】 読書啓発イベントを年1回以上行う。</p> <p>【成果指標】 貸出利用者率80%以上</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
安全・安心な学校生活	<p>(1) 安心・安全な生活への支援を行う (寄宿舎)</p> <p>【活動指標】 年間3回の避難訓練(火災2回、地震1回)と防災教室、職員対象として不審者対応訓練を含む防災研修を実施する。</p> <p>【成果指標】 避難訓練と防災教室を通して、舎生は避難経路と身の守り方を、職員は避難時の安全な誘導の仕方を理解し、防災への意識向上を目指す。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(2) 人権教育を重んじた実践をサポートする。 (教務部)</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	

	<p>【活動指標】いじめ防止や命を大切にす視点を含めた道徳教育の全体計画の実施状況や各教科の指導内容を定期的に把握する。</p> <p>【成果指標】各学部教務担当者および道徳教育担当者が各学期の前後に実施状況を確認し、充実を目指す。</p>		
	<p>(3) 自他の命を大切にし、いじめを許さない学校づくりを推進する（全、生活保健部）</p> <p>【活動指標】児童・生徒の状況について、各職員が情報共有を密に行い未然防止に努める。</p> <p>【成果指標】いじめの発生及び再発を0にする。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(4) 学校給食の場面や事故等の防止について校内体制を強化する（生活保健部）</p> <p>【活動指標】食物アレルギーの除去または代替食の提供、食形態の変更への対応、疾病に起因する食事制限等の対応、および異物混入を未然に防ぐ。また、非常事態時の対応マニュアルを見直し、共有する。</p> <p>【成果指標】複数人で対応し安全安心な給食の提供を100%行う。対応マニュアルの共有率100%を達成する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(5) 防災・減災への意識を高め、自らを守るような危機管理意識の向上を図る（生活保健部）</p> <p>【活動指標】通常の避難訓練に加え、抜き打ち避難訓練や防災に関わる体験学習を組み合わせ、年2回実施する。職員対象の防災研修を実施する。学校備蓄の充実と備蓄食を使用した防災給食を実施する。</p> <p>【成果指標】アンケート結果等による防災・減災への意識の向上率90%を目指す。防災給食1回以上、個人備蓄食品の試食1回、アンケートも踏まえた改善項目1つ以上を達成する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
<p>障がいの理解と啓発</p>	<p>(1) 視覚障がい児・者の理解に向けた啓発・支援活動の推進（支援部）</p> <p>【活動指標】県内全市町の福祉行政機関及び関係諸機関を訪問し、視覚障がい理解のための説明を行う。職域・職場開拓を行い、時期を設けず必要時迅速な対応を行う。</p> <p>【成果指標】関係機関への訪問を年1回以上行う。生徒の実態に応じて関係機関との連絡や情報共有を随時行う。卒業生支援については、該当する事業所などを年に1回以上訪問。事業所や卒業生から情報を収集し、職場定着に寄与する。中学部では職場体験を3年間で1回以上実施、高等部では希望する進路先を目指し、現場実習を年1回以上実施する。また進路講演会や面談の実施の100%を目指す。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>※</p>
	<p>(2) 視覚障がいに関する図書を集集、提供し、障がい理解に役立てる（総務部：図書）</p> <p>【活動指標】図書だよりやメール等で、視覚障がい関連図書の案内をする。</p> <p>【成果指標】視覚障がい関連図書の貸出冊数90冊以上</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
	<p>(3) 盲学校の日常の教育活動の様子を校外に知らせ、障がいの理解に努める（管）</p> <p>【活動指標】日常の様子をホームページ等で発信に努め、各種配布物に本校ホームページ等のリンクをつける。行事等についてはマスコミに告知する。</p> <p>【成果指標】週1回以上ホームページを更新し、各記事のア</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	

	クセスについては1か月以内に50以上を目指す。新聞等への掲載回数は学期に1回以上を目指す。		
改善課題 (年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
職場環境の向上	(1)総勤務時間を縮減する(管) 学校閉校日を夏季休業中に2日、冬期休業中に1日設定するとともに、月1～2回の定時退校日、ノー会議デーを設定する。 【成果指標】以下の達成を目指す。 ・一人あたりの月平均時間外労働は15時間以下。 ・1ヶ月の時間外在校等時間45時間を超え延べ人数0。 ・1年間の時間外在校等総時間360時間を超え人数0。 ・年休取得1人年間8日以上。 ・夏季休暇完全取得100%。 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合90%以上。	(年度末および適宜記載)	※
	(2)円滑な学校運営に努める。(総務部) 【活動指標】各種式典、バス運行・避難訓練、災害時引渡訓練、消耗品・備品・備蓄品の管理、他総務部関連諸業務、教頭業務補佐業務を行い、円滑な学校運営に努める。 【成果指標】各項目1件以上。実施内容と件数を報告。	(年度末および適宜記載)	
	(3)校内での情報共有を定期的に行い、スムーズな業務ができる環境づくりに努める(管) 【活動指標】月2回の主事会や年1回以上のオフサイトミーティングの実施により、風通しの良い職場づくりに努める。 【成果指標】学期ごとに主事会やオフサイトミーティングでの意見や改善案により具体的な業務の削減や改善につなげる。	(年度末および適宜記載)	
職員の資質向上	(1)支援機器やICT機器の使用・指導方法のサポート。(総務部:情報) 【活動指標】支援機器やICT機器の設定や使い方、指導方法等のサポートを行う。 【成果指標】年間10件以上。	(年度末および適宜記載)	
	(2)教員の専門性を向上し、授業力を高めるための研修を行う(研修部) 【活動指標】全校で校内授業公開週間、及び各部において授業改善に取り組み、授業研究を推進する。「三重県立盲学校専門性チェックリスト」を活用して、教員の自己研鑽を促進するとともに、教員のニーズを捉えた研修を行う。	(年度末および適宜記載)	◎

	【成果指標】「授業力が向上した」のアンケート回答が80%以上、研修の満足度80%以上を達成する。		
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)